# 第１回稲毛区地域福祉計画策定委員会

日　時　平成１６年7月２５日（日）
　　１０：００～１２：００
場　所　稲毛区役所　３階講堂

## 次　　第

１　開会

２　区長挨拶

３　委員自己紹介

４　議題

（１）会議の公開について

（２）各地区フォーラムの取組状況について

（３）委員長、副委員長の選任について

（４）その他

５　閉会

# 稲毛区地域福祉計画

# 各地区フォーラムの取組状況

平成16年7月25日

# 各地区フォーラムの検討課題

| 検討順 | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 山王・草野地区 | A | 居場所・交流・社会参加・交通 | 身近な生活支援・緊急時の支援・見守り | 相談・サービスのネットワーク化・ネットワークづくり・虐待 | ケアマネジメント | 安全 | — | — | — | — | — |
| | B | 人材育成・福祉教育・こころのバリアフリー・ボランティア・NPO活動 | 情報 | バリアフリー | 支援方法の改善 | — | — | — | — | — | — |
| 千草台中学校・緑が丘地区 | A | 交流・こころのバリアフリー・社会参加 | 居場所 | 情報 | 相談 | 身近な生活支援 | 見守り | 声なき要支援者の発見 | バリアフリー | 就労 | 障害者スポーツ |
| | B | 交流 | 情報 | 身近な生活支援 | 緊急時の支援 | 声なき要支援者の発見 | バリアフリー | 安全 | 就労 | 虐待 | — |
| 轟穴川・３０１地区 | A | 居場所づくり | 社会参加・自立支援 | 権利擁護 | 情報の共有 | みまもり | 子育て・子育ち | 交通問題と公共施設のバリアフリー | 住宅政策 | ボランティア・NPO活動 | — |
| | B | | | | | | | | | | |
| 稲毛・稲丘・小中台地区 | A | 交流・居場所・社会参加 | 子育て支援 | サービスの質の向上 | 見守り・権利擁護・心の健康 | 相談 | 防災 | バリアフリー | 施設の充実 | — | — |
| | B | 交流・居場所・社会参加 | 在宅ケア・身近な生活支援・自立支援 | 就労 | ボランティア・NPO活動 | — | — | — | — | — | — |

※千草台中学校･緑ヶ丘地区は、次回に検討順などを決める。
稲毛･稲丘･小中台地区Aグループの3番目以降については、検討を進めていく中で決めていく。

# 山王･草野地区

| 地区 | 課題 | 区分 | カード記載内容 | 問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 山王・草野地区 | 生活居場所・交流・社会参加・交通 | 高齢者 | 社会性を持たず寂しい高齢者がいる | アフリカの学校を支援するためのバザーを行っていると、アフリカもいいけど私たちのことはどうしてくれるのか。自分たちの方がよほど可愛相だと言われることがある。 | 1 |
| | | | 話し相手が無く、又何かをしようとしてもどうしたら良いか解らなく困っている人が多い | 地域に数少ない老人クラブは有るが、そこに入るには抵抗がある。（自治会が違う）どうしても一人で過ごすことが多くなる。 | 2 |
| | | | １「老人つどいの家」<br>２「いきいきセンター」<br>以上２点不足しています | １老人が相互の交流を図り、孤独感を緩和する場を地域にほしい<br>２稲毛区にも「いきいきセンター」を設置してほしい | 3 |
| | | | 「いきいきプラザ」への利用ができない | 路線バス等の交通手段がないため、折角の利用ができない高齢者が多い | 4 |
| | | 児童 | 山王小学校の一年生で学童保育所までが遠く、危険箇所も有り申込んだが利用していないという話を聞く。 | 山王保育園の卒園児で利用したいとおもっているが、危険な箇所がある。また、街灯も足りない。高学年は対象になっていない。 | 5 |
| | | 障害者 | 地域で生活するうえでの居場所づくり | 稲毛区には通所施設が２箇所あるが、他の中央区や花見川区にはないため、近くにあっても他の地区から殺到し利用できない。本人にあった施設を選べる状態ではなく、県立養護だけでも毎年３０人以上が卒業する。親たちは卒業後の通う場捜しに苦悩している。 | 6 |
| | | | 近隣とのコミュニケーションがとりにくい | 路上やスーパーなどで出会っても視力障害者の場合は相手が見えないし、視覚障害者の場合は手話ができないので話せない。 | 7 |
| | | | 知的障害者(成人）が休日に余暇を過ごせる機会や場所が少ない | 障害者だけを集めての文化・体育活動ではなく健常者に混じり、その中の一員として一緒に活動をしてみたい。 | 8 |
| | | | 活動への参加が限られてしまっている | 自宅と日中の活動の場（学校、施設等）との行き来のみの障害児者が多く、親と一緒でなければ外での活動等に参加することができず、地域活動への参加が限られてしまっている。 | 9 |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 山王・草野地区 | 身近な生活支援・緊急時の支援・見守り | 高齢者 | 寝たきりの原因は、介護現場の状況にも関係があるのではないか | 利用者が増加するなかで、寝たきりの原因を介護従事者はしっかり把握し、寝たきりにしない努力が求められる。 | 10 |
| | | | 高齢者の厳しい在宅生活とその増加が心配される | 家族規模の縮小、一人暮らし高齢夫婦のみの世帯など、自宅での生活を維持することが困難な人が増えると予想される。 | 11 |
| | | | 老人会としての友愛活動の範囲 | 病気入院中の独居老人が退院した場合、老人会としてどこまで支援をしたらよいか | 12 |
| | | 障害者 | 単発的なヘルパーがほしい | 病気療養中で障害者の認定も受けていないため、支援費制度にも該当せず、また、介護認定を受けられない高齢者でも日常生活は何とかやれるが、通院などの外出に介助がほしい場合。 | 13 |
| | | | 地域での理解と協力を仰ぎたい | 小さい頃から他の地域の母子通園施設や学校などに通っており、地域で友達や知り合いを作ることが難しく、また知的障害に対する知識や認識が乏しいため理解や協力を求めるには個人では限界がある。 | 14 |
| | | | 親がかりでない一連した制度 | 支援費制度が導入され、地域支援が始まりましたが、親が年老いて送迎が困難になった時や突然の親の病気や怪我に対応できません。親の送迎困難になることを考え早くから入所施設を考えます。本人支援といっても親がかりで考えているので国が入所施設をもう作らないといっている以上、隙間だらけの制度では安心して地域で生活できません。 | 15 |
| | 相談・サービスのネットワーク化・ネットワークづくり・虐待 | 障害者 | 相談できる場（コーディネーター的な役割）が少なく、社会資源を活用できないでいる | 障害児者が、地域の社会資源を利用したいのだが、相談できる（コーディネーター的な役割）が少ないため、活用することができずにいる。 | 16 |
| | | | 障害児と母親（家族）に精神的なフォローを | 「我が子に障害があるのでは？」と思ってからの家族、特に母親の精神的なフォローがあまりにもないと感じた。「ケアする人のケア」が足りない。 | 17 |
| | | | 知的障害者が一人で買い物をする時に困ってしまうことがある | 一人で買い物をした時、品物を選ぶことができなかった、精算時にお金の管理ができず困ってしまったなど、買い物ができなかった障害児者がいる。（障害者に対する手の差し延べ方がわからない人が多い。） | 18 |
| | ケアマネジメント | 障害者 | 親がかりでない一連した制度 | 支援費制度が導入され、地域支援が始まりましたが、親が年老いて送迎が困難になった時や突然の親の病気や怪我に対応できません。親の送迎困難になることを考え早くから入所施設を考えます。本人支援といっても親がかりで考えているので国が入所施設をもう作らないといっている以上、隙間だらけの制度では安心して地域で生活できません。 | 19 |
| | 安全 | その他 | 地域の治安に不安を感じる | ちょっと暗くなると高齢者や子どもの一人歩きが心配な地域になってしまった。 | 20 |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 山王・草野地区 | 人材育成・福祉教育・こころのバリアフリー・ボランティア・ＮＰＯ活動 | 高齢者 | 寝たきりの原因は、介護現場の状況にも関係があるのではないか | 利用者が増加するなかで、寝たきりの原因を介護従事者はしっかり把握し、寝たきりにしない努力が求められる。 | 21 |
| | | 障害者 | 知的障害児のボランティアが少ない | ボランティアセンターに募集をしてもなかなか知的障害児のボランティアが見つからない。 | 22 |
| | | | 知的障害者を対象としたホームヘルパーの養成研修が少ない（民間養成機関は高齢者対象の養成が主体） | 支援費を利用する際に知的障害を理解して対応してくれるホームヘルパーを確保している指定事業者が少ない。 | 23 |
| | | | 子供たちへの障害者に対する教育について | 小学校の近くを通って帰路につくが、子供たちが遠巻きにしているが手を貸してくれることが少ない。 | 24 |
| | | | 知的障害者のグループホーム開設時に地域の理解と協力が欲しい | 公営住宅へのグループホーム開設について一部といえども地元住民の理解を得られないと開設できない。 | 25 |
| | 情報 | 児童 | コンビニや本屋さんにも平気でいかがわしい本が並んでいる | 女性の裸の載った雑誌や、性交渉を描いたまんが等がコンビニや本屋に並んでおり、子供の目につくだけでなく、自由に手にすることもできて問題である。大人の私たちにとっても不愉快。 | 26 |
| | | | 保育園周辺の在宅児の情報が知りたい。 | 「保育園に遊びに来てください。」とか「子育てで何か悩んだりしていることは有りませんか？」というような事を伝えたいが、なかなか情報がつかめない。 | 27 |
| | | 障害者 | 障害者同士のコミュニケーションがとれない | 身体障害者相談員というピアカウンセリング制度があるが、地域に在住する障害者を把握できない。 | 28 |
| | | | 知的障害者が一人で買い物をする時に困ってしまうことがある | 一人で買い物をした時、品物を選ぶことができなかった、精算時にお金の管理ができず困ってしまったなど、買い物ができなかった障害児者がいる。（障害者に対する手の差し延べ方がわからない人が多い。） | 29 |
| | | | 地域での理解と協力を仰ぎたい | 小さい頃から他の地域の母子通園施設や学校などに通っており、地域で友達や知り合いを作ることが難しく、また知的障害に対する知識や認識が乏しいため理解や協力を求めるには個人では限界がある。 | 30 |
| | バリアフリー | 高齢者 | 歩行者の安全が保たれていない。 | 歩道がない、又は路肩が狭い道路が多く安心して道路を歩けない。 | 31 |
| | | | 車椅子用トイレの設置が少ない | 公共施設以外の車椅子用トイレの設置が不充分であり不便を感じている。 | 32 |
| | | 障害者 | 公民館などで近隣で催される講座などに参加しにくい | 講座の中に視力障害者や聴覚障害者（手話通訳）などの配慮がされないし、施設にも重度の身体障害者（車椅子など）に対し、ドアが狭かったり段差があったりして、利用しにくい。 | 33 |
| | 支援方法の改善 | 児童 | 児童・生徒の教育費未納について（給食費・教材費・修学旅行費等の未納） | 給食費の未納者や家計のやりくり上、修学旅行の不参加生徒に対し、苦慮する場面が生じて来ている。 | 34 |

# （解決策の検討）山王・草野地区フォーラム（Aグループ）

## Ⅰ 「居場所･交流･社会参加･交通」に関する課題の整理

地域で交流・活動をするための居場所が必要です。そして、その場所は、地域に住むみんなが利用しやすくなければ意味がありません。

高齢者・児童・障害者それぞれで活動することがあっても、その地域のあらゆる人々が一緒に活動することはほとんどないのが現状です。

また、地域で交流・活動を行いたくても、様々な理由により活動を行うことができない人もいます。

そこで、今回出された問題・キーワードから、「居場所・交流・社会参加・交通」を一緒にして、解決策を検討することにしました。

### （1）高齢者

- ○ 社会性を持てずにいる高齢者がいる。
- ○ 話し相手もなく､何かをしようとしてもどうしたらいいかわからなく困っている人がいる。
- ○ 高齢者の居場所（老人つどいの家、いきいきセンターなど）が不足している。交流を図り、孤独感を緩和する場が必要である。
- ○ 「いきいきプラザ」への利用ができない。（交通の便の問題）

### （2）児童

- ○ 子どもルームを利用したくても、学校から行くまでに危険な箇所が多い。また、子どもルームは高学年が対象となっていない。

### （3）障害者

- ○ 地域で暮らしていくための施設が不足している。（本人にあった施設を選べる状態でない。）
- ○ 障害者だけを集めての文化･体育活動ではなく健常者に交じり、その中の一員として一緒に活動したい。
- ○ 自宅と日中の活動の場（学校･施設等）との行き来のみの障害児者が多く、また、地域活動への参加が親と一緒でないとできないので、活動への参加が限られてしまっている。
- ○ 路上などで出会っても視覚障害者の場合は相手が見えないし､聴覚障害者の場合は手話ができないので話せない。

## Ⅱ 区のあるべき姿

※ 次回に検討します。

## Ⅲ 「居場所･交流･社会参加･交通」に関する解決策

○老人クラブに加入する人が少なくなってきた。
　加入した場合、役員になることが多くなるため敬遠されがちだ。
　老人会という名前が良くない。
　　↓
　老人会　名称を楽しく明るくする。
　小規模なグループを作ってはどうか。

○身近な場所、気楽な場所、安心な場所
　　↓
　空き教室の活用　⇔　学校側の理解が得られない
　　（危険が伴う。管理は誰がするのか）
　体育館だけの利用にとどまっている。
　昼間も利用したい。

○交通手段
　路線バスだけではなく、幼稚園のバスやデイサービスバスなどの活用ができるならば、地域住民の交流ができる。

○公民館利用について
　規制が多いのでもっと簡素化し、多くの住民が利用できるようにする。

○世代間（他世代）交流について
　たとえば、老人施設においても老人だけの施設利用ではなく障害者、健常者の区別なく利用ができるようにする。

※　解決策については、次回も引き続き検討します。

# （解決策の検討）山王・草野地区フォーラム（Ｂグループ）

## Ⅰ 「人材育成･福祉教育･こころのバリアフリー･ボランティア･NPO活動」に関する課題の整理

地域住民・事業者を含め要支援者に対する理解が浸透していないのが現状のようです。

福祉に関する理解は、子どもの頃からの教育・経験によって、自然と育まれていくものだと思います。また、研修や講演会を通して、理解を深めていくことが重要だと考えられます。

そこで、今回出された問題・キーワードから、「人材育成・福祉教育・こころのバリアフリー・ボランティア・ＮＰＯ活動」、解決策を検討することにしました。

### （１）高齢者

○ 介護保険の利用者が増加するなかで、寝たきりの原因を介護事業者はしっかり把握し、寝たきりにしない努力が求められる。

### （２）障害者

○ ボランティアセンターに募集をしてもなかなか知的障害児のボランティアがみつからない。

○ 支援費を利用する際に知的障害を理解して対応してくれるホームヘルパーを確保している指定事業者が少ない。

○ 小学生などが手を貸してくれることが少ない。

○ 公営住宅へのグループホーム開設などについて一部の地元住民から理解が得られない。

## Ⅱ 区のあるべき姿

※ 次回に検討します。

## Ⅲ 「人材育成･福祉教育･こころのバリアフリー･ボランティア･NPO活動」に関する解決策

（人材育成について検討中、知的障害者に対する解決策を討議）

○市民全体の知的障害者に対する意識の壁を取り払う必要があり
○ボランティアの核となるプロの育成が必要
○知的障害者を受け入れる体制の整備

※　解決策については、次回も引き続き検討します。

# 千草台中学校･緑が丘地区

| 地区 | キーワード | 区分 | カード記載内容 | 問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 千草台中学校・緑が丘地区 | 交流・こころのバリアフリー・社会参加 | 高齢者 | 高齢者同士の交流が低い | 行政の高齢者向けの諸行事への人数は延人数では多いが特定の人に偏っている傾向がある。高齢者夫婦、独身者の孤立の比率が高い。交流も少ない。 | 1 |
| | | 障害者 | 障害者と健常者の間の理解度が低い。 | 障害者のごく一部はい権利を強く主張する傾向があり、大多数は孤独。そういう面も健常者の障害者への思いやりを阻害している。その壁を除去するには。 | 2 |
| | | | 知的障害の人達の学校卒業後の進路先について | 知的障害者の通所施設が少なく、地域生活や働く場所に不安を感じている。 | 3 |
| | | | 知的障害の人達が地域住民と交流していくには | 知的障害に対する正しい知識が地域社会で理解されておらず、地域住民との交流が少なく、地域の中に溶け込めない。 | 4 |
| | | | 地域生活において身近に気軽に関わりあえる人や出会いの場がない。 | 障害者やその家族が、地域生活において身近に気軽に関わりあえる人や出会いの場がない。 | 5 |
| | | | 障害者の結婚問題 | 障害者の女性がなぜ家から結婚の対象となる所へでないか | 6 |
| | | その他 | 在住外国人の地域社会の中での孤立 | 日本語力の不足や文化の違いなどが原因で、地域にとけこめない。外国人子弟は日常会話はすぐに覚えても、授業をうける際など不便を感じている。 | 7 |
| | 居場所 | 児童 | 小公園等の設置は一応されているがその利用度は低い。 | 児童数の減少のためか幼児の利用はまあまあだが学童の利用は少ない。 | 8 |
| | | | 共働きの家庭の場合、下校後の安全な居場所が無い | | 9 |
| | | | 学校5日制に伴う地域での対応の不充分さ | 児童が、休日に、地域社会で過ごせる場所が少ない。 | 10 |
| | | | 就園前の幼児の遊び場について | 外で遊べないときの、幼児の遊び場が少ない。公共施設も利用させてもらえない。 | 11 |
| | | その他 | モノレールスポーツセンター駅ロータリーがスケートボードの遊び場になっていることについて | 夜間の暗がりの中でスケートボードをしているが雰囲気が悪い | 12 |
| | 情報 | 高齢者 | これからの地域福祉を支える商店街にある通初介護アミーゴを知り利用することが難しい。 | 通所介護など、介護保険で利用できるサービスの情報が、広く周知されていない。 | 13 |
| | | 障害者 | 支援費サービス等の情報取得が困難 | 制度の改正等があっても、障害者になかなか届かない。 | 14 |
| | | | 障害をもった人でも入れるサークル情報がわからない | | 15 |
| | 相談 | その他 | 福祉に関する相談窓口の対応に不安を感じる。 | 相談窓口では、制度などの情報提供のみの対応となり、その後は自分でやらねばならす、制度を利用できない人がいる。 | 16 |

| 地区 | キーワード | 区分 | カード記載内容 | 問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 千草台中学校・緑が丘地区 | 身近な生活支援 | 高齢者 | 独居 | 独立している方、外部との交流のない人を自然の形で安否確認できる方法 | 17 |
| | | | 高齢者に対する福祉政策の後退 | これ以上の政策上後退のないようにするには？ | 18 |
| | | 児童 | 学校での保護者会託児 | 1年に１～２回ある学校での面接の折、乳幼児の持つ母親はゆっくり面接も参観もできないのでどこか一部屋でボランティアさんに見てて欲しい。 | 19 |
| | | 障害者 | 知的障害の人達が地域の中で生活していくには | 知的障害者と家族にとって必要である、福祉に関わる専門的な知識を持っているコーディネーターやボランティアの方々のサポートが少ない。 | 20 |
| | 緊急時の支援 | 高齢者 | 超高齢化社会を目前にして、老介護の悲惨さが社会問題となる | 高齢者夫婦の一方が入院したときに、すぐに支援が必要となることがある。 | 21 |
| | | 児童 | 3歳の子どもを預かってくれる所が欲しい。 | 家の近くで適当な値段、長時間公でも、私でも | 22 |
| | 見守り | 高齢者 | 独居 | 独立している方、外部との交流のない人を自然の形で安否確認できる方法 | 23 |
| | 声なき要支援者の発見 | 高齢者 | 独居世帯に対する配慮と実態把握 | 年齢に限らず孤独死が特に集合住宅に多い。 | 24 |
| | | | 独居の高齢者で介護サービスが必要でありながら利用できない方がいる。 | 介護サービスが必要でありながら、介護認定の申請ができず、更に通院もできない方がおり、認定を受け受診しはじめて病気が見つかるケースがある。 | 25 |
| | | | 独居高齢者の安否の確認について | 配色サービスで訪問した際、応答がなく、裏の窓をこじ開けて入り、発見した時には布団の上で意識不明でたおれていたことがあり、早い対応により一命をとりとめたことがあったが、配食休みの日であったり家の中に入ることが出来なかった場合は問題である。 | 26 |
| | | | 50代の1人暮らしの男性が孤独死 | 50代なので民生委員の対象外。どうやってチェックできるか。 | 27 |
| | | | 団地住民の高齢者の集合ポストからチラシその他があふれている | 他の住民との接触を全く拒否。ブザーを押して出てこない。夜間行動。 | 28 |
| | | その他 | 福祉に関する相談窓口の対応に不安を感じる。 | 相談窓口では、制度などの情報提供のみの対応となり、その後は自分でやらねばならす、制度を利用できない人がいる。 | 29 |

| 地区 | キーワード | 区分 | カード記載内容 | 問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 千草台中学校・緑が丘地区 | バリアフリー | 高齢者 | 団地住まいの独居高齢者で日常生活用品の買物で不便を感じている。 | エレベーターのない団地で買物した荷物やシルバーカーを自力で運ぶことができない方がいる。また３～４段の階段があり、店頭や骨折につながるケースがある。 | 30 |
| | | | 高齢者が移動するときに周辺の道路がまだまだ歩けない。（バリアフリーしてないから） | 道路のバリアフリーが進んでおらず、歩きにくいので、家から外に出ない高齢者がいる。 | 31 |
| | | 障害者 | 車椅子利用者がスポーツセンター駅前交差点を渡ることが危険 | 16号線をわたる時、青信号時間が短く、車椅子の人たちにはきつい。 | 32 |
| | | その他 | 各モノレール駅で足の不自由な高齢者や障害者にとっては階段の昇降がしにくい。 | モノレール駅の階段は、高齢者・障害者にとっては、昇降がしにくい。 | 33 |
| | 安全 | 児童 | 児童の安全な通学路の見直し | 小学校区と他の中学校区が複合してる地区では改善が特に必要。（通学路の横断歩道、歩道橋の問題など） | 34 |
| | | | 児童、生徒が犯罪に巻き込まれている | 子どもが、犯罪にあうことが多くなっている。 | 35 |
| | | その他 | 空き巣・車上荒らし、ひったくり等が多く発生しているらしい。 | 空き巣、車上荒らし、ひったくり等が多く発生しているらしく、不安である。 | 36 |
| | 就労 | 障害者 | 障害者の作業種目にハウスクリーニングを取り入れているが、営業ノウハウがわからない | | 37 |
| | | | 障害者の中高者の雇用の問題。なかなか仕事につけない。 | ①事業主が障害者の雇用を協力できない。<br>②障害者の程度が難しい。 | 38 |
| | 障害者スポーツ | 障害者 | 障害者のスポーツセンター利用方法がわからない | せっかく近くに立派な施設があるが利用方法がわからない | 39 |
| | 虐待 | 高齢者 | 高齢者虐待、介護者の救済方策 | 介護疲れによる家族、親族による虐待が年々増加している。経済的な問題もあると思われるが、心身の健康に悪影響を及ぼしている。 | 40 |

| 地区 | 課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 轟穴川・３０１地区 | 生活居場所づくり | 高齢者 | 異世代間の交流の場がない | 高齢者のみの交流の場は地区社協が中心になって事業の展開を図っているが、アンケートなどで小・中学生等と交流したい希望が多い。日常的に交流ができる場所があるとお互いに良いのでは。 | 1 |
| | | | 居場所づくり | 中学校区単位くらいで、高齢者や障害者や子どもたちがぶらっと立ち寄り、共同で使えるようなスペースが居場所としてあれば、しかも市民自らが運営していけるような場所があればいいなと思う。 | 2 |
| | | | 高齢者が健やかに暮らしたいのだが、場所がなくなっている。 | 高齢者が生きがいを作りたいと重い、交流の場を探しているのだが、場がなく残念がっている。 | 3 |
| | | | 自由に過ごせる居場所 | 高齢者が寒い季節でも外で長時間おしゃべりを楽しんでいる | 4 |
| | | 児童 | 子育て広場の促進と利用 | | 5 |
| | | | 放課後、休日等安全に過ごせる居場所ない | 共働き等で親の目が届きにくい時間を過ごす子供が多い。低学年は子供ルームがあるが、親子共安心して過ごせる場所が日常の生活圏にあると良い。 | 6 |
| | | | 児童の安全な遊び場が不足している。 | 子供たちが安心して、球技など集団で遊ぶ場所がなく、社会性が育たない。 | 7 |
| | | | 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進 | 関係機関の主催する、催し物に積極的に招待、紹介、参加を促す。例、コミュニティーまつり、町内会お祭り等 | 8 |
| | | | コミュニケーション不足 | | 9 |
| | | | 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進 | 関係機関の主催する、催し物に積極的に招待、紹介、参加を促す。例、コミュニティーまつり、町内会お祭り等 | 10 |
| | | 障害者 | 知的障害児(者)の人たちに対しての生涯にわたる支援のシステムができていない。 | 幼児期３歳児まで゜の検診で専門医の評価がない。（早期発見、療育が遅れる。）学齢児～養護学校生徒、休日（土曜日）長期休暇での過ごす場がない。養護学校卒業後の進路（就職、施設等々）、受け皿が不足しており、その相談、個々のケアするシステムがない。親、家族支援のシステムがない。 | 11 |
| | | その他 | 「福祉」の問題が特別なことだと思われている。 | そもそも「福祉」とは何かということもあるが、多くの市民にすれば「福祉は特別なこと」「当事者だけの問題」と感じているようである。 | 12 |

| 地区 | 課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 轟穴川・３０１地区 | 生活 | 高齢者 | 介護サービス相互理解の推進 | 本人の要望や変更がケアマネージャーに届かないことがある。 | 13 |
| | | | 食の自立 | 高齢者でも障害者でも残存能力を活かす生活が大切である。そのひとつとして食へのこだわりを持ち続けることが必要だと思う。その支援策として配食サービスは大切である。地域の中に市民参加型の事業者を育てながら、現在は独居の高齢者のみが対象というのをみなおし、拡大していくべきではないか。 | 14 |
| | | | 在宅介護支援 | 区ごとに、市直営の在宅介護支援センターがほしい。情報をいっぱい持っているところとして、緊急時の対応、困ったときの横断的な対応策が図られる所として、区の福祉の拠点 | 15 |
| | | | 独居高齢者の食生活の向上 | 独居の高齢者が多く住み、週１回の弁当昼食を楽しみにしている。もっと広げて豊かな食生活を送らせたい。 | 16 |
| | | | 援護の必要な高齢者が安心して暮らせなく、不安を感じている。 | 家庭での援護が難しく、施設での援護を必要としているが、施設入居がてぎなくて、不安を感じている人がいる。 | 17 |
| | | | 高齢世帯60～70代が80～90代を扶養している。 | 年金暮らしをしながら、８０、９０代の親と同居して扶養、介護している。 | 18 |
| | | 児童 | 関係機関の連絡調整 | 子育ての場面で、共に生きる(ソーシャル・インクルージョン)と言ったり、(パートナーシップ型住民参加)といっても現実は、お隣同士何をやっているのかもわからない。コミュニティーとは程遠い、孤独社会になってしまっている。 | 19 |
| | | | 福祉サービスの適切な利用の推進 | 民生委員、児童委員の活躍、関係機関への紹介、連絡、調査、懇談等。 | 20 |
| | | 障害者 | 障害者訓練施設のしくみ | 障害者の施設のことなどが地域において認識されてない。 | 21 |
| | | | 知的障害者の学校教育、通う場働く場の充実 | 知的障害者の養護学校卒業後、在宅を余儀なくされる子供たちがたくさんいる。 | 22 |
| | | | 知的障害者が地域で暮らしていくためのネットワークづくり | 障害者のことをまず精神面、身体面あらゆる角度から理解したうえで、ハンデを背負った子が今何を必要としているか、何をすればその人の能力が十分に生かされ、その人らしく生き生きと暮らしていけるか、話し合いを十分に重ねながら、親亡き後もそのまま地域に暮らしていけるように、障害者に関わる人々の輪を広げていくネットワークづくりに協力をお願いしたい。 | 23 |
| | | | 知的障害児(者)の人たちに対しての生涯にわたる支援のシステムができていない。 | 幼児期３歳児まで゜の検診で専門医の評価がない。（早期発見、療育が遅れる。）学齢児～養護学校生徒、休日（土曜日）長期休暇での過ごす場がない。養護学校卒業後の進路（就職、施設等々）、受け皿が不足しており、その相談、個々のケアするシステムがない。親、家族支援のシステムがない。 | 24 |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 轟穴川・301地区 | 社会参加・自立支援 | 障害者 | 家庭内での生活が主体となっている人 | 障害者関連の施設で、いろいろ楽しい行事が行われていることを紹介 | 25 |
| | | | 障害者の自立 | さまざまな障害を持つ人たちがほんとうに自立して在宅で生きていくにはどのような施策展開が必要なのか、当事者にも参加してもらいながら、このフォーラムで考えていきたい。 | 26 |
| | | | 障がいをもつ子どもへの支援<br>赤ちゃん～大人になるまで | | 27 |
| | | | 高校をでても行き場のない障がいをもつ若者の就労 | | 28 |
| | | その他 | 「福祉」の問題が特別なことだと思われている。 | そもそも「福祉」とは何かということもあるが、多くの市民にすれば「福祉は特別なこと」「当事者だけの問題」と感じているよう | 29 |
| | | | 子育て支援 | 子育て支援のシステムができていない。 | 30 |
| | 権利擁護 | 障害者 | 知的障害児(者)の人たちに対しての生涯にわたる支援のシステムができていない。 | 幼児期３歳児まで゜の検診で専門医の評価がない。（早期発見、療育が遅れる。）学齢児～養護学校生徒、休日（土曜日）長期休暇での過ごす場がない。養護学校卒業後の進路（就職、施設等々）、受け皿が不足しており、その相談、個々のケアするシステムがない。親、家族支援のシステムがない。 | 31 |
| | 情報の共有 | 高齢者 | マップづくり | 市でつくっている福祉マップもありますが、このフォーラムのような小さな単位で自分達の住む地域にどのような公共施設やサービス事業者があり、街のなかが移動しやすいバリアフリーになっているのか、災害時のルートはどうだろうかとチェックしあう、市民マップづくりが必要だと思う。 | 32 |
| | | | 独居、一人暮らし | 一日中一人で家で過ごしている高齢者が多い。 | 33 |
| | | 障害者 | 障害者訓練施設のしくみ | 障害者の施設のことなどが地域において認識されてない。 | 34 |
| | | | トイレマップづくり<br>福祉交番の提案 | 障害者用のトイレがどこにあるかわからなくて困る、という声が多い。<br>あらゆる人にやさしいマップづくり。又どこに行けば（例：駅、お店）情報が得られるかの周知を考えたい。福祉交番は如何か。交番には人がいつもいて欲しいと思う | 35 |
| | | | 知的障害児(者)の人たちに対しての生涯にわたる支援のシステムができていない。 | 幼児期３歳児まで゜の検診で専門医の評価がない。（早期発見、療育が遅れる。）学齢児～養護学校生徒、休日（土曜日）長期休暇での過ごす場がない。養護学校卒業後の進路（就職、施設等々）、受け皿が不足しており、その相談、個々のケアするシステムがない。親、家族支援のシステムがない。 | 36 |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 轟穴川・３０１地区 | 情報の共有 | その他 | 制度や施設についての情報が少ない | 介護保険のしくみや高齢者の自立支援の制度や施設について全体がわかりにくいし、具体的に目にする機会が少ない。直面しないとわからない。障がいを持つ人たちがどのように制度でどうやって生活しているか知らない。 | 37 |
| | | | サービスの情報がわからない。 | 高齢者施設等でどこが良い施設であるのか、第三者機関の評価がない。 | 38 |
| | みまもり | 高齢者 | 介護サービス相互理解の推進 | 本人の要望や変更がケアマネージャーに届かないことがある。 | 39 |
| | | | 高齢者の見守り | 要介護度の低い独居の高齢者や痴呆性高齢者の場合、受けられるサービス量の低さのため、サービスとサービスの間の空白時間帯が多い。 | 40 |
| | | | 地域カウンセリング | 在宅で暮らし続けたい高齢者、障害者にとって、介護保険や支援費制度のメニューの活用以外に精神面のカウンセリングを本人・家族が気軽に受けられるといいなと思う。ヘルパーやケアマネージャーでも関与できない専門的な分野であり、在宅ホスピスケアの環境づくりにつながっていってほしいと願う。 | 41 |
| | | | 体の弱い高齢者が生き生きと暮らしていけない不便さを感じている。 | 一人住まいや高齢者のみの世帯で、健康状態に不安を感じている高齢者が多く、不便を感じている人がいる。 | 42 |
| | | | 高齢世帯60～70代が80～90代を扶養している。 | 年金暮らしをしながら、８０、９０代の親と同居して扶養、介護している。 | 43 |
| | | 児童 | 青少年の非行は成人を上回り、一段と低年齢化している。 | 青少年がＴＶゲームなどに没頭し、昔のように外で遊ばなくなり、周囲との関わりが希薄になった。また、放火等の犯罪も増えている。 | 44 |
| | | | 児童虐待 | 児童養護施設をでた子どもたちの居場所として地域の中に少人数のあたたかいホームづくりが求められていると思う。特に被虐待児に障害がある場合、養護施設よりも小さなホームが必要なのではないか。 | 45 |
| | | 障害者 | 知的障害児(者)の人たちに対しての生涯にわたる支援のシステムができていない。 | 幼児期３歳児まで゜の検診で専門医の評価がない。（早期発見、療育が遅れる。）学齢児～養護学校生徒、休日（土曜日）長期休暇での過ごす場がない。養護学校卒業後の進路（就職、施設等々）、受け皿が不足しており、その相談、個々のケアするシステムがない。親、家族支援のシステムがない。 | 46 |
| | | その他 | 子育て支援 | 子育て支援のシステムができていない。 | 47 |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 轟穴川・３０１地区 | 子育て・子育ち | 児童 | 関係機関の連絡調整 | 子育ての場面で、共に生きる(ソーシャル・インクルージョン)と言ったり、(パートナーシップ型住民参加)といっても現実は、お隣同士何をやっているのかもわからない。コミュニティーとは程遠い、孤独社会になってしまっている。 | 48 |
| | | | 福祉サービスの適切な利用の推進 | 民生委員、児童委員の活躍、関係機関への紹介、連絡、調査、懇談等。 | 49 |
| | | | 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進 | 関係機関の主催する、催し物に積極的に招待、紹介、参加を促す。例、コミュニティーまつり、町内会お祭り等 | 50 |
| | | | 子育て広場の促進と利用 | | 51 |
| | | | 子育ち論の提唱 | | 52 |
| | 交通問題と公共施設のバリアフリー | 高齢者 | バリアフリー基準の運用がうまくいっていない。 | 障害を持っている方々が地域にどの位いるか分からない。行事などに出てきてもらう工夫を考えたい。集合住宅など出入り口にスロープができているが、勾配が急であったり、折り返しスペースが少なく曲がれない等身障初心者には使いにくいらしい。 | 53 |
| | | | 交差点の安全性の問題 | 現在、自転車用として表示あるも若者を含め、大半の人が路面を通っている。高齢者の歩道橋利用は無理。 | 54 |
| | | | 体の弱い高齢者が生き生きと暮らしていけない不便さを感じている。 | 一人住まいや高齢者のみの世帯で、健康状態に不安を感じている高齢者が多く、不便を感じている人がいる。 | 55 |
| | | 児童 | 青少年の非行は成人を上回り、一段と低年齢化している。 | 青少年がＴＶゲームなどに没頭し、昔のように外で遊ばなくなり、周囲との関わりが希薄になった。また、放火等の犯罪も増えている。 | 56 |
| | | 障害者 | トイレマップづくり<br>福祉交番の提案 | 障害者用のトイレがどこにあるかわからなくて困る、という声が多い。<br>あらゆる人にやさしいマップづくり。又どこ | 57 |
| | | | 歩道の整備 | 車椅子走行のための歩道の傾斜。道路の曲がり角や交差点等のＬ字溝の段差で走りにくいところがある。弱視者のための点字ブロックの黄色が薄くなってしまっているところをはっきりみやすく塗る。歩道上の駐輪・住宅前の植木鉢・店頭の看板の出っ張りがある。 | 58 |
| | | | 公共施設 | 地域に内部障害者用トイレがない。 | 59 |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 轟穴川・３０１地区 | 交通問題と公共施設のバリアフリー | その他 | 公共交通網がない | 公共交通網がなく、駅や公共施設にいくのが不便　高齢になると商店街にいく足がない | 60 |
| | | | 道路の移動や公共交通機関の利用にあたっての問題点（交通バリアフリーの問題点） | ・主要な駅や特定経路などにおけるハード面の整備は進んできているが、市民のちょっとした心づかいが足りなかったりするため、まだまだ移動の際のバリアが多い。<br>・整備されたりもともとあるバリアフリーの設備が有効に活用されていない。 | 61 |
| | | | 公共の交通手段がない | 高齢者や障害者にとって歩くには遠すぎる区役所や駅までのバスの便がない。 | 62 |
| | | | 道路が狭い | 道路が狭いので救急車やゴミ収集車が家の近くまで入れないところがある。 | 63 |
| | 住宅政策 | 高齢者 | 住居 | 障害をもったり、加齢にともなったり、住居のバリアフリー化は大きな問題であり、また戸建に住んでいる場合、一軒家の管理はできなくなる。在宅で暮らし続けるには転居しかない。今後公団の建てかえや公営住宅の建設にあたるなかで、これからの超高齢社会に対応する住宅政策があるのだろうか。 | 64 |
| | ボランティア・ＮＰＯ活動 | 児童 | 児童の安全な遊び場が不足している。 | 子供たちが安心して、球技など集団で遊ぶ場所がなく、社会性が育たない。 | 65 |
| | | 障害者 | 集会場、地区行事 | 地区行事を行うときに手話通訳者等を配置していない。 | 66 |

# 稲毛･稲丘･小中台地区

| 地区 | 課題 生活 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 稲毛・稲丘・小中台地区（A） | 交流・居場所・社会参加 | 高齢者 | **社会参加** | **高齢化が進み、老人クラブに参加する人が減少しているため、老人クラブの活動が危機的な状況になっている** | **1** |
| | | 児童 | **地域の子ども達との自発的な挨拶** | **地域で挨拶がされなくなってきている** | **2** |
| | | | **学童保育の年齢引き上げ** | **共働き夫婦が増えているが、カギっ子にしておくといろいろな問題がある。学童保育の対象年齢が限られており、子どもの安全な居場所がない。** | **3** |
| | | | **核家族が多く、子育て不安がなくなるよう支援をしたいが、居場所づくりをしなければ** | **子育て支援の活動の場所がない** | **4** |
| | | 障害者 | **障害児を地域の学校等で交流できるように。ふれあいの場養護学校が遠くにあるため** | **障害者が住む地域の学校と、実際に通う養護学校との間に交流がない。あるいは、少ない。** | **5** |
| | | | **精神障害者の社会復帰** | | **6** |
| | 子育て支援 | 児童 | **事件等の情報の伝わり方** | **今日、小さな事件が多発しているが親達の間で「いつ、どこで、こんなことがあった」ということが確かでないことまで尾ひれ背びれがついて広まっていく。** | **7** |
| | | | **学童保育の年齢引き上げ** | **共働き夫婦が増えているが、カギっ子にしておくといろいろな問題がある。学童保育の対象年齢が限られており、子どもの安全な居場所がない。** | **8** |
| | | | **一次救急** | | **9** |
| | | | **待機児解消** | | **10** |
| | | | **これからの子育て支援の課題** | **子育てにおいて、まだまだ父親の参加が少ない。また、子育てを親子でしていくという考えが少ない。さらには景気に起因する事も多い。** | **11** |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 稲毛・稲丘・小中台地区（A） | サービスの質の向上・在宅ケア・身近な生活支援・自立支援 | 高齢者 | 施設に対してのお願い | 施設に改善を望むことがあっても、不利益な扱いを受けることが心配で、十分に要望を伝えられない | 12 |
| | | | 訪問介護を受けている家庭のゴミ出しの仕方 | 早朝、ヘルパーさんが来てくれる家庭はいいが、他は前日に出すことになるのでは。一件で出してあると他の人も出してしまう。 | 13 |
| | | | 介護保険制度がすばらしい制度になっているので、高齢者のすべての人によい点を知らせる方法 | 介護保険制度について、高齢者へ十分に情報が伝わっていない | 14 |
| | | | 介護施設の不足 | 老親を高齢者が介護するには限界があり、介護施設か在宅支援に頼らざるをえないのが現状。施設に入るには長い待機期間が必要。経費負担の問題もある。 | 15 |
| | | | ・閉じこもり防止<br>・一人暮らし老人の実態把握<br>・介護予防のための健康づくり運動 | | 16 |
| | | | 高齢者 | 高齢者を在宅介護する人が少なくなり独居者が増えているため、近隣の人たちの協力による生活支援の必要性が高まっている | 17 |
| | | | 自立支援 | 虚弱・独居の高齢者に対して支援したくても、受け入れてもらえないことがある | 18 |
| | | 障害者 | 障害者の自立 | | 19 |
| | 安全 | 児童 | 児童 | 地域の目が届く、児童の安全な遊び場が少ない | 20 |
| | | その他 | 災害弱者への避難への対応マニュアル作り | 災害弱者が災害時にどの人の手を借りてどういう風に安全な地帯に避難する等スムーズに避難出来るようなマニュアルがない。 | 21 |
| | | | 生活の安全　高齢者・児童・障害者を含む | 高齢者・児童・障害者が安心して生活できなくなってきている | 22 |
| | 見守り・虐待・権利擁護・心の健康 | 高齢者 | 介護保険から見える高齢者の虐待。ふれあい広場をつくり不安をなくす | | 23 |
| | | 障害者 | 家の中に閉じこもり雨戸を閉めている家族をどう支援するか、心を病んでいると不登校につながっている。近隣のたすけあいの必要性 | 心を病んで苦しんでいる人をどう支援したらよいか。 | 24 |
| | | | 親なき後 | | 25 |
| | 相談 | 児童 | 育児相談 | | 26 |
| | | | 核家族が多く、子育て不安がなくなるよう支援をしたいが、居場所づくりをしなければ | 子育て支援の活動の場所がない | 27 |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 稲毛・稲丘・小中台地区（A） | 災害弱者・防災・緊急時の支援 | その他 | **災害弱者への避難への対応マニュアル作り** | **災害弱者が災害時にどの人の手を借りてどういう風に安全な地帯に避難する等スムーズに避難出来るようなマニュアルがない。** | 28 |
| | | 障害者 | **・防災訓練に参加を<br>・災害のときに連絡の方法の手段<br>・災害のとき避難する場所は<br>・災害のときにどう生きていくのか不安** | **千葉市では災害時に千葉県にあるような「災害弱者の手引き」のようなものがない。** | 29 |
| | バリアフリー・施設の充実 | 障害者 | **・バリアフリー<br>・精神障害者の社会復帰<br>・親なき後<br>・障害者の自立** | | 30 |
| | | | **稲毛地区に肢体不自由者の施設がないため、不便** | | 31 |
| | | その他 | **道路環境** | **道路環境が悪く、高齢者等が外出しづらい状況になっているところがある** | 32 |
| | 身体の健康 | 高齢者 | **・閉じこもり防止<br>・一人暮らし老人の実態把握<br>・介護予防のための健康づくり運動** | | 33 |

| 地区 | 生活課題 | 区分 | カード記載内容 | 検討後問題要旨 | No |
|---|---|---|---|---|---|
| 稲毛・稲丘・小中台地区（B） | 交流・居場所・社会参加 | 高齢者 | 高齢者の交流の場がない | １小学校学区で小学生４００名に対し７０歳以上の高齢者が１０００名を超えている。　高齢者の場合近くに交流の場がないと引きこもりになる事が多く、防止する為に小規模でも集合出来る場所が欲しい。 | 34 |
| | | | 児童との日常的な交流がない。 | 核家族化の中、児童はまれに何かの活動をすることもあるが、日常的には殆ど皆無である。（学校の空き教室の高齢者利用、子供達の遊ぶ場→児童館と高齢者の憩う場の併設など） | 35 |
| | | | 家に居場所が無い高齢者の、施設がない。 | 奥さんを亡くし、嫁さんと折り合い悪く、家庭に居づらく表に出るが、行く所が無く一日中公園のベンチ等で、時間つぶしをしている。 | 36 |
| | | 児童 | 新築マンションに入居した子育て中の家庭が近隣との交流がない | 小学校、幼稚園、保育所等に通学している子供がいる親子は交流の機会があるが、０歳児から入園前の育児の母親の交流がなく、非常時の場合の対策もない。 | 37 |
| | | | 小中台地域には児童館のような建物がない。 | 小中台地域では子供ルームがありますが、人数が限られているそうです。入りたくても入れない子供達は家で寂しく両親の帰りを待っているようです。子供の人数は減少していますが何か良い方法はないかと考えています。 | 38 |
| | | | 入園待機児が多い | 保育所、保育園に入園できず、自宅での待機乳児、幼児がたくさんいる。 | 39 |
| | | 障害者 | 高齢者との日常的な交流がない。 | 高齢者と児童との交流がない | 40 |
| | | | 近隣住民との人間関係が希薄化している。 | 近隣の住民と挨拶等を交わそうとした時、無視されるなど交流を持とうという意識が少ない。 | 41 |
| | サービスの質の向上・在宅ケア | 高齢者 | 中程度の痴呆のある独居老人又は痴呆のない独居老人は身支度、戸締り等を自分で行っている。 | 中程度の痴呆のある利用者さんが通所介護を利用しているが、独居であるため、身支度や持ち物の用意、戸締りなどを行っている。 | 42 |
| | | 児童 | 養護学校に通う子供の送り迎えが親の負担となっている。 | 「障害児」を持つ親はバスに乗せる、あるいは自家用車で送り迎えする等時間を確保しなければならず、フルタイムで働くことができない。出産を控えたある親は、その出産の時　ある「障害児」の送り迎えをどうしようか悩む。「地域ボランティアによる支援など」 | 43 |
| | | 障害者 | 精神障害者を福祉の対象というより病者として見ている。 | 在宅サービスの整備が不十分の中、地域で生活する精神障害者は増えているが、活用可能なサービスさえも知らず、不自由な生活を送っている精神障害者が多い。 | 44 |
| | 就労 | 障害者 | 精神障害者が通える場・働ける場等が稲毛区内にほとんどない。 | 選択の時代に選ぶ余地もなく通所待ちの状況である。　社会参加の機会も制限されているのが現状である。 | 45 |
| | | | 就業先の不足 | 特に知的障害者の就職先が無く、在宅での家族に負担がかかっている。　一般企業での雇用先がない。 | 46 |
| | ボランティア・ＮＰＯ活動 | 児童 | 養護学校に通う子供の送り迎えが親の負担となっている。 | 「障害児」を持つ親はバスに乗せる、あるいは自家用車で送り迎えする等時間を確保しなければならず、フルタイムで働くことができない。出産を控えたある親は、その出産の時　ある「障害児」の送り迎えをどうしようか悩む。「地域ボランティアによる支援など」 | 47 |

（解決策の検討）

## 稲毛・稲丘・小中台地区フォーラム（Ａ・Ｂグループ）

### Ⅰ 「交流･居場所･社会参加」に関する課題の整理

地域でのつながりが、薄くなってきており、交流に関する問題が多くだされました。高齢者・児童・障害者それぞれの交流もそうですが、高齢者と児童など、地域を通して交流が必要だと考えられます。

また、交流をするにも近くに場がないため、引きこもりになってしまうとの意見がありました。

今回出された問題・キーワードから、「交流・居場所・社会参加」を一緒にして、解決策を検討することにしました。

**（１）高齢者**

○ 老人クラブに参加する人が減少しているため、老人クラブの活動が危機的な状況になっている。
○ 高齢者の場合近くに交流の場がないと引きこもりになる事が多い。
○ 児童との日常的な交流がない。

**（２）児童**

○ 学童保育の対象年齢が限られており、子どもの安全な居場所がない。
○ 子育て支援の活動の場がない。
○ ０歳児から入園前の育児の母親の交流がなく、非常時の場合の対策もない。

**（３）障害者**

○ 障害者が住む地域の学校と、実際に通う養護学校との間に交流がほとんどない。
○ 近隣住民との人間関係が希薄化している。

### Ⅱ 区のあるべき姿

※　次回に検討します。

## Ⅲ 「居場所･交流･社会参加･交通」に関する解決策

**＜Aグループ＞**

検討の進め方については、年齢順（高齢者・障害者・児童・その他の区分ごと）に取り組んで、その中で共通点を出していくことになりました。
また、既存の施設をどう利用するかを基本に考えていこうということになりました。

### （1）高齢者

① 高齢者の居場所の現状
- ○ いきいきプラザ
- ○ いきいきサロン
- ○ 老人つどいの家（現在はあまり機能していない）
- ○ 自治会館・公民館

② 高齢者の実態把握について
- ○ 一般的には民生委員の役割ではないか。
  民生委員が訪問する際に、梅干を持っていきその梅干をきっかけに会話が生まれるようにする。（他自治体でも実施しているところある）
  梅干は、社会福祉協議会に用意するようお願いする。
- ○ 新聞配達人や郵便配達人との連携を図っていく。

③ 高齢者を外に出すには
- ○ 自治会がしっかりしなければならない。
- ○ 老人クラブの運営方法を考えなければならない。（魅力のあるものにする必要がある）
- ○ 「老人クラブ」の名称もよくない。「人生大学」に変える。
  （活動例）
  会費制で若者も引き込んで、焼鳥屋等で「人生大学」を開催する。
- ○ ハーモニープラザにある「ことぶき大学校」のようなカルチャースクールを活発化させる。介護予防にもなる。
  「カルチャー」･「スポーツ」･「ボランティア」等で引き出すのがいいのではないか。そこで得た知識を他の人に還元したりして、交流が生まれる。また社会参加の手段にもなる。高齢者が高齢者に教えているパソコン教室というような形でボランティア活動にもなる。

**（２）その他**

**○ 一日学校を開放して、高齢者・児童・障害者が一緒に地域の居場所として、交流・社会参加をする。住民戸行政が協働して運営を出来たらいいのではないか。**

**＜Bグループ＞**

**Ａグループと同様に、既存施設の有効活用ということで、現状を把握するために、地区の公共施設等の場所が記載された地図を見ながら次回に解決策を検討することになりました。**

**※　解決策については、各グループとも次回引き続き検討します。**